

## 生物工学研究所第2回主要課題現地検討会（納豆用大豆）の開催

平成26年9月19日（金）、場内および現地圃場において標記の検討会を開催しました。今回は納豆用大豆に関する検討会ということで、茨城県納豆商工業協同組合に加盟している納豆製造業者様にも参加いただき、県関係者を含め計27名が出席して、納豆用小粒大豆有望系統や品種選抜システムの開発について意見交換を行いました。また、納豆の試食や今年度大豆の作柄に関する情報提供等もあり、有意義な検討会となりました。

### 1 納豆用小粒大豆有望系統の紹介について

- ・実需者の要望に応えるため現在育成中の有望系統「ひたち1号」、「ひたち3号」を紹介しました。
- ・「ひたち1号」は、本県で長年栽培されている「納豆小粒」と北海道の品種「スズマル」を交配した系統です。「納豆小粒」と比べ、やや多収で納豆加工適性に優れる特徴があります。
- ・「ひたち3号」は、「黒大豆小粒」に「スズマル」を交配した系統で、栽培しやすく多収であることが特徴です。特色ある黒豆納豆として、付加価値の高い商品づくりが期待されます。
- ・圃場見学では、両系統とも草丈が短く、倒伏しにくい特徴が確認できました。また、最下着莢位置や脱粒程度などの栽培しやすさに関わる特性や、密植栽培における収量増加効果等について活発な質疑応答がありました。

### 2 おいしい小粒納豆を造るための品種選抜システムの開発について

- ・品種開発の早い段階から、納豆への加工適性が優れるものを選抜できるシステムの開発状況を紹介しました。
- ・このシステムは、選抜段階の豆の硬さや色等を機械で測定し、その数値から納豆にした時の食味官能試験の評価結果を推定できるようにするものです。
- ・本研究は、県納豆商工業協同組合、県工業技術センターと共同で取り組んでおり、今回はそれぞれの担当者から進捗状況等の紹介がありました。

### 3 有望系統の納豆試食、作柄情報等について

- ・「ひたち1号」、「ひたち3号」、「納豆小粒」で造った納豆の試食を行いました。
- ・特に「ひたち1号」で造った納豆については、納豆製造業者様から「納豆小粒」と比べて、歯触りや香り等が良く、品種化を期待しているとの評価をいただきました。
- ・また、今年度大豆栽培は、梅雨の降雨等で播種時期が遅れたものの、莢つきが多く、台風等の被害が出なければ平年並み以上の収量が期待されるとの情報提供がありました。

今後も生物工学研究所では県納豆商工業協同組合や県工業技術センターと連携しながら、生産者並びに実需者の期待に応えられる、大豆品種の育成と普及を目指します。



圃場検討のようす



室内検討のようす